

まつどミュージアム

No. 8 2000年(平成12年)3月

■松戸市立博物館所蔵の自然史標本資料■

松戸市立博物館では、現在、自然史関連事業の一環として、すでに寄贈を受けている2つの大きな生物標本コレクションの整理・登録作業がすすめられております。どちらのコレクションも松戸に深い関わりをもつのはもちろん、学術的にも価値の高い標本群であり、今後は市域生態生物基礎資料として活用されるほか、ひろく一般の研究活動や学習支援活動にも役立てられることとなります。その内容の一端を紹介しましょう。

千石正一氏寄贈爬虫両生類標本群(千石コレクション)

平成3年に財団法人環境研究センターの千石正一氏より寄贈された、氏自身の蒐集による爬虫両生類標本コレクションです(推定総数約800種7,500個体)。日本国内のみならず、韓国や台湾、中米、南アフリカなど、世界各地から採集された様々な分類群のものが含まれ、中には稀少な種や、今後の入手が困難と思われる貴重なものも少なくありません。また、普通種であっても、地理的変異が調べられるよう分



整理・登録をまつ千石コレクション(一部)

布域のひろい範囲から採集されているものがあり、松戸で採集された標本も多く含まれています。本資料は今後、松戸市立博物館自然史部門爬虫両生類標本資料(MMMN-R)あるいは同両生類標本資料(MM MN-A)として登録・保管されます。

東京都水産試験場寄贈魚類標本群

1997年、東京都水産試験場水元分場の移転に先立って寄贈された魚類標本群です。もとは1970年代中頃～1980年代末頃の間に行われた水生生物調査で採集され、保存されていた資料で、江戸川や中川、多摩川などから採集された淡水・汽水性魚類と、三番洲や羽田洲などといった東京湾奥部から採集された海水性魚類により構成されています。その総数はいまだ定かではありませんが、おそらく100種前後、68,000個体以上には達するものと思われます(平成12年2月現在、そのうちの約33,000個体を整理・登録済み)。とくに「目玉」といえるような珍しいものはいませんが、普通種からやや稀な種までまんべんなく収集されているため、この地域の「かつて」を知る上で貴重な情報をもたらすものと期待される標本群です。また、普通の調査では見落とされがちな仔稚魚が、大量に、しかも状態よく保存されている点においても価値の高いコレクションであるといえます。本標本群は今後、松戸市立博物館自然史部門魚類標本資料(MMMN-P)あるいは同仔稚魚標本資料(MMMN-P(L))として登録・保管されます。



トビハゼ(*Periophthalmodon modestus*)。MMMN-P873。体長57.6mm。江戸川放水路河口。1979年4月15日採集。

教科書のなかの道具とくらし

学校教育との連携を目指して開催する学習資料展「教科書のなかの道具とくらし」も今年で3回目を迎えました。この展示は小学校3年生が3学期の社会科で学ぶ「かわってきた人びとのくらし」の単元にあわせて、「古いものをあつめる」「古い道具からむかしをしらべる」などの小単元に登場する一昔前の生活用具の実物を展示して、学童の学習効果を高めようとするものです。

■会期：平成12年2月15日(火)～4月9日(日)

■会場：松戸市立博物館企画展示室

■展示構成と主な展示資料（約150点）

I 米づくりの道具

本来、4年生以上で学習する内容ですが、生活が一変する昭和30年代の、機械化以前の生産に使われた道具として展示し、あわせて江戸時代から使用されているものと構造的にほとんど変わらない農具も見られることを通して、道具の変化の多様性について考えてもらうコーナーです。

からすき/鎌中ぐわ/じょれん/まぐわ/なえかこ/田植え定規/肥おけ/除草履/ふみ車/千歳こき/足ふみ脱こ機/ふるい/もみならし/とうみ/万石/ーとます/米俵/みの/しょうこ…など



II 家のなかの道具

教科書のイラストにある昭和初期の農家の台所の様子を復元し、そこにある道具を通して当時の生活を現在の生活と対比して、生活の変化を実感してもらうコーナーです。

かまど/かま/なべ/七輪/水がめ/手おけ/洗いおけ/ほうろく/すりばち/徳利/せいろ/うす/きね/かっ車/たらい/洗たく板…など

III 部屋でつかう道具

家電製品が各家庭に浸透する前、食事ができる台所（ダイニングキッチン）が出現する以前の部屋の様子を復元し、そこにある道具や生活の様子を見ながら、その後の急激な生活用具や住宅事情の変化に

ついて考えてもらうコーナーです。

たんす/ちゃぶ台/おひつ/文机/行李/茶箱/ふみか/くけ台/針箱/火ばち/たばこぼん/あんか/やぐらこたつ/炭びつ/布団/かいまき/かや/かやりふた/はい帳…など

IV 道具のうつりかわり

昔の道具と現在の道具をくらべながら、道具の変化・変遷とは何なのか、生活の変化にどのように関わるのかを考えてもらうコーナーです。

かま/文化なべ/電気かま/電子ジャー/ひのし/炭火アイロン/電気アイロン/そろばん/計算尺/手動計算機/電卓/あんどん/ちょうちん/がんどう/かい中電灯/氷式冷蔵庫/電気冷蔵庫…など

V むかしと今をくらべて

同地点を撮影した昔と現在の景観写真を掲げて、市内の変化の様子を紹介するコーナーです。

体験 むかしの道具を使ってみよう

昔の道具を実際に使いながら、当時の生活の一端を実感してもらうコーナーです。

石うす/しょうこ/肥おけ/手おけ/さおばかり/ばねばかり/かね尻/くじら尻/かねし

体験教室「ちょっと昔のせんたく&アイロン体験」

開催期間中の第2・4土曜日に、たらいと洗たく板による洗たく体験と、ひのし・炭火アイロンによるアイロン体験を実施しています。七輪や火ばちも使ってみます。

この展示の第一目的は、もちろん学童の社会科学習への支援にあります。一方で、平成14年度から始まる「総合的学習の時間」の問題が常に担当者の脳裡にあって、道具と人間との関わりを考えながら、環境問題やエネルギー問題さらに健康問題などについても考えるきっかけになってくれれば、というひそかな目論見をもっていました。学童たちへの展示解説の中では、時間的余裕がある場合、そんな問いかけもしてみたのですが、果たして担当者の想いは伝わったのでしょうか。



平成11年度の活動より

開かれたガンダーラの宝物庫

—松戸の学芸員も協力、ガンダーラ遺跡、発掘調査報告—

松戸市教育委員会では、平成7年度から5カ年にわたって、東京国立博物館がパキスタンで実施している発掘調査に協力しています。

遺跡は、ザロ・デリー(金の丘)と呼ばれる大きな仏塔と、僧が暮らしていた僧院を持つ4・5世紀頃の寺院跡ですが、昨年の秋の調査で大発見がありました。

僧が暮らしていた3×3m程の小部屋で、あふれんばかりの130点ものガンダーラ彫刻が出土したのです。

パキスタン北部のガンダーラ地方は、仏像を生み出した地域として有名ですが、ガンダーラ遺跡はこのガンダーラ仏の骨髄的価値のために、地元の人々によって盗掘を受けることが多く、ガンダーラ彫刻は遺跡に残されていないことがほとんどです。

そのようなガンダーラ彫刻が1500年以上前に置かれたそのままの状態で出土したのですから、その歴史的価値ははかり知れません。

この遺跡の発掘調査の成果は、平成12年5月頃に開催予定の報告会で詳しくお伝えしたいと思います。ご期待下さい。



▲ガンダーラ彫刻が発見された僧院

歴史を書きかえる あの出土品！

—「新発見考古速報」(99年度)が松戸にやってきた—

今回の展示では、奈良^{（奈良県）}飛鳥池遺跡から出土した話題の富本銭も展示されました。この富本銭はすでに平城京跡や藤原京跡など数カ所から発見されていましたが、発見例が少ないことなどから、経済的に流通した貨幣ではなく、厭勝銭や後世の模銭と同じように、お守りや縁起物のように使われた「まじない銭」の一つとみなされてきました。しかし、今回の飛鳥池遺跡の調査で、富本銭が7世紀まで流通することがほぼ確実になりました。そうすると『日本書紀』や『続日本紀』にみえる7世紀後半の銅銭の記事との関係が問題となります。もし富本銭がこの記事にいう銅銭であれば、和同開珎より古い最古の貨幣ということになります。まさに「歴史を書きかえる発見」ということとなります。



▲話題の貨幣 富本銭
(写真提供：東京国立文化財研究所許可可)

松戸の自然についてもっと知ろう

—自然史担当の学芸員が入りました—

自然豊かな公園のなかに建つ当館に、'99年4月、自然史担当の若手学芸員が1名入りました。専門は魚生物学。なかでも特に「ハゼ類を中心とした河川～浅海性魚類」に関する調査研究に携わってきた人材です。本人いわく、生来の「生き物好き」であり、これからは魚はもちろん、市内にすむ様々な動植物の生きる姿を紹介していきたいと意気込んでいます。

今後は、自然関連の講座や講演会、体験教室等も開催していく予定です。考古・歴史・民俗・自然・普及の学芸員が揃い、互いに有機的な連携をはかって、様々な角度から郷土松戸の歴史と文化を探ってまいります。

●アンケートボックスの中の声●

Q：「新発見考古速報展」で大風呂南墳墓群（京都府）から出土した「ガラス銅」を見ました。弥生時代のガラス製造について教えてください。

（平成11年度「発掘された日本列島'99」展における質問から）

A：現在のところ日本でガラス製品が発見されるのは紀元前1世紀頃の弥生時代からとされており、縄文時代の遺跡からは発見されていません。

弥生時代のガラス製品には緑色の鉛ガラスと、木色のアルカリ石灰ガラスの2種類が見られます。質問にある大風呂南1号墓出土のガラス銅（写真）のように製品として直接輸入されたと思われるものと、中国大陸から塊や破損品を原料として輸入し、日本で再加工して製品に仕上げられたものがあります。管玉や丸玉は鉄芯に溶けたガラスを巻きつけてつくります。勾玉は砂岩や土製の銅型に流しこんでつくられていました。

ガラスを溶かして製品に加工するには1000度以上の高温を必要とするので、専門の工房で熟練した技術者により製作されていたものと考えられます。弥生時代には船作を可能にした水田造成技術をはじめ、外敵からムラを守るための防衛施設をめぐらす土木技術、青銅器などの金属器を製作する技術など、新しい技術が大陸から伝えられましたが、専門集団によるガラス製品の生産もそうした新技術の一つでした。



▶透明度の高いコバルトブルーのガラス銅
(写真提供：岩波教育委員会)

「新発見考古速報展 発掘された日本列島'99」
平成12年1月15日～2月6日当館にて開催

平成12年度 博物館行事INFORMATION

※詳しい内容・参加申し込み等につきましては博物館までお問い合わせ下さい。

月	行	事	展 示
4月	☐ 館内公開 4/2(日) ☒ 「将門記を読む」(全 8回) 4/3～7/6の隔週水曜日と7/13(木) ☒ 古文書講座「古文書を読む[近世入門編]」(全 5回) 4/22(土)と5/13～6/24の隔週土曜日 ☒ 講座「紀行文を読む」(全12回) 平成13年3月まで毎月1回開催	4/9(日)まで 平成11年度学習資料展 「教科書のなかの道具とくらし」 4/22(土)～6/18(日) 資料展 「柿の木台遺跡 出土品展」	
5月	☐ 映像で見る歴史と文化「歴史発見～ロマンを求めて～」 5/3(金)・4(土)・5(日)・6(月)・7(火) ☐ 講演会「ガンダールの仏塔を撮るV」 5月開催予定 ★体験教室「赤米をつくる」(全7回) 5/7・5/14・7/9・8/6・9/10・9/17・10/10いずれも(日)		
6月	☒ 体験教室「縄文時代の布をつくる」(全 4回) 6/3(土)・4(日)・11(日)と17(日)または18(日) 車庫裏体験 6/26(月)～7/3(月)		
7月	☐ ☆親子自然観察会① 7月開催予定 ☆夏休み1日学芸員 7/30(日)		
8月	☐ ☆親子自然観察会② 8月開催予定 ☐ 映像で見る昭和の記録 8/6(日)・9(火)・15(土) ★夏休み体験教室「縄文時代の土器をつくろう」(全 2回) ① 8/8(火)・15(土) ② 8/9(水)・16(火) ③ 8/10(木)・17(火) ☆夏休み壁穴教室「縄文時代のくらし」 8/18(土) ☆自然史関連講演会 8月開催予定	8/13(日)～9/24(日) 美術展 「デザイン にっぽんの水鏡」	
9月	☒ 古文書講座「古文書を読む[近世中級編]」(全10回) 9/13～11/15の毎週水曜日 ☒ 映像人類学講座(全 3回) 9月開催予定 ☐ 特別講演会 9月開催予定		
10月	☐ 講演会「松戸の自然を語る」 10月開催予定 ☐ 企画展関連シンポジウム 10月開催予定 ☒ 体験教室「縄文土器をつくる」(全 5回) 10/2(土)・29(日)・11/4(日)・5(日)・18(日)	10/7(土)～11/26(日) 企画展 「戦後松戸の 生活革新」	
11月	☐ 講演会「松戸の歴史を語る」 11月開催予定		
12月	☐ 館内公開 12/3(日)		
平成13年	☒ 体験教室「糸を紡ぐ・布を織る」(全 3回) 1/30(土)・31(土)(事前勉強会) および2/6～3/28 の毎週火・水曜日のうちの1日		
1月	☒ 考古学講座(全 4回) 2/4～3/18の隔週日曜日	1/16(火)～3/31(土) 学習資料展 「教科書のなかの 道具とくらし」	
2月	☐ 学芸員連続講演会 ① 2/25(日) ② 3/4(日) ③ 3/11(日)		
3月	★春休み体験教室「糸を紡ぐ・布を織る」春休み期間中開催予定		
通年	☐ ☆江戸時代旅装束試着体験 毎月第1日曜日①13:00～②14:00～③15:00～④16:00～ ☆ガイドツアー(総合展示解説) 毎日①10:00～②14:00～		

※□：一般対象単発行事 ■：一般対象連続行事 / ☆：小中学生対象単発行事 ★：小中学生対象連続行事
 ※連続行事は開始月に記載してあります。

ハイビジョン上映予定

※上映開始時間

平日：①13:15 (2回) ②15:15
土日祝：①11:00 (3回) ②13:15 ③15:15

- ※場所：講堂
 ※観覧無料
 ※都合により予定を変更する
 場合があります。

月	ハイビジョンのタイトル	上映時間
平成12年	4月 新譯は何を語るのかー島根県加茂岩倉遺跡	60分
5月	宮島・厳島神社ー平安の祈りの美	40分
6月	オウムガイの生きる海	45分
7月	水戸大橋落ー南米・バタゴニア	40分
8月	天と地の饗宴ーアリゾナ・砂漠の雷	40分
9月	故宮 至宝が語る中華五千年 第五集 弘の道はるかー五胡十六国・北魏	60分
10月	故宮 至宝が語る中華五千年 第六集 長安の春ー隋・唐	60分
11月	故宮 至宝が語る中華五千年 第七集 大唐の落日ー唐・五代	60分
12月	故宮 至宝が語る中華五千年 第八集 夢の都 開封ー北宋	60分
平成13年	1月 イギリスの旅ーロンドン・リージェンツ運河紀行	30分
2月	イタリア トスカーナ紀行ー中世の彫影ける芸術の町 シエナ	30分
3月	悠久の長江 三峡	50分

上記の行事についてのお問い合わせは ☎047-384-8272 教育普及係まで

利用案内

- ★開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 月曜日(ただし祝日)にあたる時はその翌日
 ★休館日 館内整理日(毎月第4金曜日)
 徳島県開(6月26日～7月3日)
 年末年始(12月28日～1月4日)

★観覧料

区 分	個人	団体(30人以上)
一 般	300円	240円
高校生・大学生	150円	100円
小学生・中学生	100円	60円

- ※小学生未満及び70才以上の方は無料です。
 ※第2・4土曜日は小中学生は無料です。
 ※企画展・特別展等は別料金をおいただくことがあります。

★交通

新成線八柱駅・JR武蔵野線新八柱駅下車
 新成バス小原団地循環バス「公園中央口」
 下車バス停前

まつどミュージアム No. 8

発行日 2000年(平成12年)3月31日
 編集・発行 ①松戸市立博物館
 〒270-2252 千葉県松戸市千駄塚671
 ☎047-384-8181